

Connecting with the community.

まえばし 地域共生 フォーラム

2024.02.17 (土)

13:30-15:30

前橋市総合福祉会館 ホール



主催 社会福祉法人 前橋市社会福祉協議会

後援 前橋市

プログラム

時 間	内 容								
13:00～13:30	受付								
13:30～13:40	開会／あいさつ 前橋市社会福祉協議会会長 南雲 厚								
13:40～14:10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">基調講演</div> <p>「地域と多様な主体との連携」 群馬医療福祉大学 中越信一 氏</p>								
14:10～14:20	＜休憩＞								
14:20～15:30	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">パネルディスカッション</div> <ul style="list-style-type: none"> ■ テーマ 「協働におけるそれぞれの視点と工夫」 ■ ファシリテーター 群馬医療福祉大学 中越信一 氏 ■ 実践報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 若宮地区×群馬大学の取り組み <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">群馬大学大学院保健学研究科准教授</td> <td>石川麻衣 氏</td> </tr> <tr> <td>若宮地区自治会連合会長</td> <td>角田有司 氏</td> </tr> </table> (2) 大利根町×NPO 法人ソシリッサの取り組み <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">大利根町自治会長</td> <td>岡正雄 氏</td> </tr> <tr> <td>NPO 法人ソシリッサ代表</td> <td>萩原涼平 氏</td> </tr> </table> (3) 専門職の立場から 前橋栄養士会 機能強化型認定栄養ケア・ステーション 栄養まえばし責任者 小坂桂子 氏 (4) 企業の立場から 群馬ヤクルト販売株式会社 群馬ヤクルト販売株式会社 未来価値創造部次長 武藤大輔 氏 	群馬大学大学院保健学研究科准教授	石川麻衣 氏	若宮地区自治会連合会長	角田有司 氏	大利根町自治会長	岡正雄 氏	NPO 法人ソシリッサ代表	萩原涼平 氏
群馬大学大学院保健学研究科准教授	石川麻衣 氏								
若宮地区自治会連合会長	角田有司 氏								
大利根町自治会長	岡正雄 氏								
NPO 法人ソシリッサ代表	萩原涼平 氏								
15:30	閉会								

基調講演

「地域と多様な主体との連携」

群馬医療福祉大学 中越信一 氏

講師プロフィール

中越信一（群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 事務長）

群馬県社会福祉協議会を退職後、群馬医療福祉大学でサービス・ラーニング、ボランティア活動の授業を担当し、学生のボランティア活動と地域で活動する関係機関団体とのコーディネートにおいて活躍をしている。



地域と多様な主体との連携

2024/2/17



群馬医療福祉大学 / 短期大学部

中越 信一

「仁」～思いやりで未来を創る大学～

2

地域の課題

- 「人口減少」による「小地域の維持困難」
- 「少子・高齢化」による人口構造の変化
- 町内会・自治会組織の加入率の低下、担い手の不足
- 全世代における「単身世帯の増加」
- 居住者の多様化、ひきこもり・8050、孤立・孤独、複雑・複合課題の増加
- 「家族・親戚での支え合いの限界」
- 「つながりを育むこと・支えられることが苦手」

地域共生社会の理念

全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。

「ニッポン一億総活躍プラン」

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 協賛学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

つながる

つながるとは

地域の暮らしの中で、問題・課題を抱えている高齢者、障害者、子育て中の母・父・児童等への支援は、公的、私的、市民活動など様々な形で行われる。

しかし、多様な支援があるにも関わらず、つながることが遅れたり、深刻な状況になってしまったり、時には生命にかかわる事態に陥ることもある。



なぜ、つながらないのか？
つながりにくいから？

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 協賛学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

なぜつながらないのか

背景

「迷惑をかけてはいけない」と躰けられ、育った。
 「人助けは進んでするように」と教育されたが、困ったときには「助けてもらって自分を守る」という術を学ぶ機会が少なかったのでは。

結果

自分が困っても、「助けて！」と言えない！
 また、「助けて！」の「適度」がわからず、頼り過ぎてしまい、相手が引いてしまうことも！

支えられ上手になるためには、「助けて！」と言える理解が必要。
 「助けてもらって自分を守る」という術を学ぶ。

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

つながるとは

つながる力がない

支援が必要な方からの視点

- ・ 支援が必要な高齢者、障害者、子育て中の母・父、児童等は、言葉によって表現することが必ずしも得意ではない。
- ・ 我慢する。
- ・ 支援の手続きが難しい。
- ・ サービスの表示や内容が分からない。 など

つながる気持ちになれない

- ・ サービス利用に伴う嫌な体験。
- ・ 利用者と担い手の理解の不十分。
- ・ 支えられた体験がないことへのためらい。
- ・ 迷っているうちに、時期を逃した・遅れた。 など

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

つながるとは

支援者の視点

つながる力はあっても使えない・届かない

- ・ 支援者が当事者の話を聞く力がない。
- ・ 支援者が当事者の話を聞くという気持ちを持っていない。
- ・ 時には聞くポーズやたらいまわしも。
- ・ つながる場所や人がいない。
- ・ つながる情報がない。
- ・ 研修の必要性。 など



これらの状況に対し支援者や支援組織はどのように対応するのか

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gunma University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	--------------------------	---

高齢者のインターネット利用率（令和3年度）

総務省「2021（令和3）年『通信利用動向調査報告書世帯編』統計表一覧」


	合計	男	女
60～64歳	89.1%	90.5%	87.8%
65～69歳	80.0%	82.6%	77.5%
70～79歳	59.4%	65.8%	53.9%
80歳以上	27.6%	37.5%	21.9%
(参考) 65歳以上でまとめてみた利用率	53.4%	62.1%	46.7%
(参考) 75歳以上でまとめてみた利用率	36.0%	45.8%	29.5%
(参考) 国民全体の利用率	82.9%	86.3%	79.8%

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gunma University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	--------------------------	---

連携とは

共有化された目的を持つ複数の人及び機関（非専門職も含む）が、単独では解決できない課題に対して、主体的に協力関係を構築し、目的達成に向けて取り組む相互関係の過程

吉池毅志、栄セツコ「保健医療福祉領域における「連携」の基本的概念整理精神保健福祉実践における「連携」に着目して
桃山学院大学総合研究所紀要代34巻第3号、PP. 109-122 2009年3月

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

連携のプロセス

- ① 単独解決できない課題の確認
- ② 課題を共有しあえる他者の確認
- ③ 協力の打診
- ④ 目的の確認と目的の一致
- ⑤ 役割と責任の確認
- ⑥ 情報の共有
- ⑦ 連続的な協力関係の展開

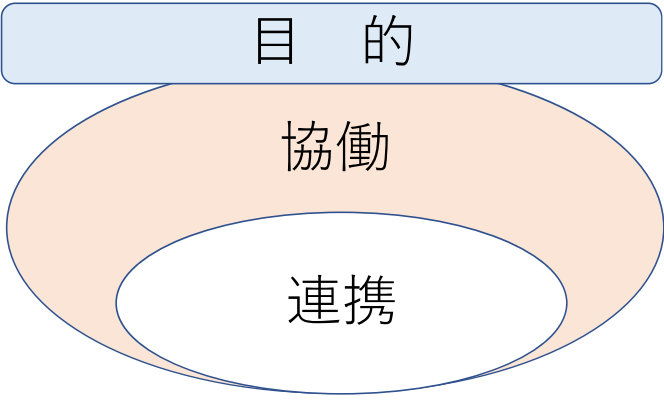
吉池毅志、栄セツコ「保健医療福祉領域における「連携」の基本的概念整理精神保健福祉実践における「連携」に着目して
桃山学院大学総合研究所紀要代34巻第3号、PP. 109-122 2009年3月

全学生による地域貢献・ボランティア活動 × 現場に強い医療・福祉・教育人材育成	「仁」～思いやりで未来を創る大学～	 学校法人 群馬学園 群馬医療福祉大学 短期大学部 <small>Gyomu University of Health and Welfare / Two-year college Course</small>
---	-------------------	--

連携と協働の関係

協働は同じ目的を持つ複数の人及び機関が協力関係を構築して目的達成に取り組むことを協働という。
協働を実現するための過程を含む手段的概念が連携である。

「連携」 人→多職種連携
「協働」 機関→多機関協働
※日常的には「連携」という言葉は「協働」の意味を含んで用いられることも多い



※重層的支援体制構築推進人材養成研修広報啓発事業配付資料
2023.10より

連携・協働を進めるための伝えかたのポイント①

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

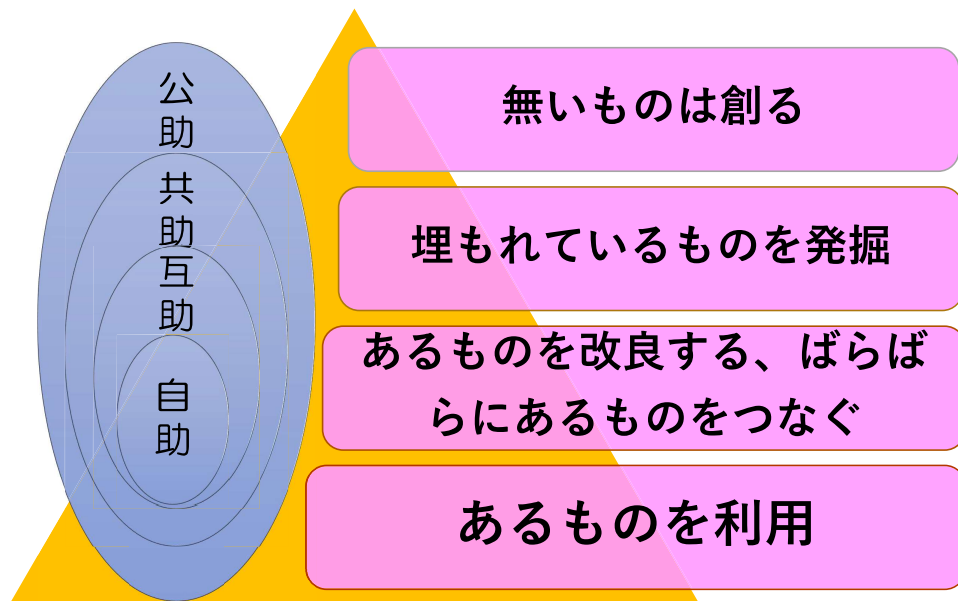
連携・協働を進めるための伝えかたのポイント②

①

②

③

連携・協働による地域資源の活用と開発



連携・協働による地域力を高めるためには

- テーマや対象を限定しないエリア型の活動も必要
- 顔の見える関係での課題の発見
- 柔軟な対応、緊急対応
- 休めないような活動はしない
- 無いと暮らせないような活動はしない
- 近所だからこそ気を使ってしまうこともある
- 活動の報酬は、やりがい、楽しさ、良い仲間、専門職やキーパーソンとのつながり、情報
- 主体性がカギ、指示されるとやりたくなくなることも
- 80歳台も現役、70歳台も若い人のイメージに

お互い様宣言 2001年, 前世田谷ボランティア協会理事長 牟田悌三

丘の上から眺めると、人びとはみんな同じに見える
 丘をおりて人びとの間を歩くと、みんな違う顔をしている
 心の中も違うんだ
 その違いを感じ合ったり、認め合ったりするのが
 人間の面白さじゃないか
 お互い他人(ひと)の出来ないことをする
 或るときはあげたり、或るときはもらったり
 そんな信頼出来るお互いになるのが、昔からあるお互いさま
 そんな社会をめざすのが、ボランティアじゃないの
 「またまた、いいんだって お互いさまじゃん」

実践報告 1

若宮地区 × 群馬大学の取り組み

群馬大学大学院保健学研究科准教授 石川麻衣 氏

若宮地区自治会連合会長 角田有司 氏



群馬大学医学部保健学科における 若宮地区との協働の取り組み

群馬大学保健学研究科 石川麻衣

群馬大学医学部保健学科の紹介



高度化、専門化する保健医療の担い手となる専門職の育成

看護学 専攻 : 看護師 保健師 助産師

検査技術科学 専攻 : 臨床検査技師 細胞診断士

作業療法学 専攻 : 作業療法士

理学療法学 専攻 : 理学療法士

若宮地区との活動のきっかけ



保健師を目指す学生の**総合実習**を行うにあたり、
実習地域を探していた

→前橋市の保健師さんに相談したところ、
若宮地区の推薦を受けた

合わせて、教育と地域貢献とを一体化した
学生ボランティア制度「**学生保健サポーター**」
の活動を推進したいと考えた

若宮地区との活動のきっかけ

保健師を目指す学生の**総合実習**を行うにあたり、
実習地域を探していた

→前橋市の保健師さんに相談したところ、
若宮地区の推薦を受けた

総合実習

4年生を対象とした、総まとめの実習

チームでの活動

地域の方との連携協働 を重視

若宮地区での総合実習

- 10月～11月の間に、10日間の実習を実施

日程	学生の実習内容	若宮地区の方との関わり
1日目	資料分析・全体計画の立案 関係者から地域活動の概要を聞く	自治会連合会長の講話
2日目	地区把握計画の検討 家庭訪問の準備	
3日目	地区踏査	家庭訪問・地域行事 参加
4日目	地域行事等の参加	
5日目	家庭訪問	
6日目	情報分析 聞き取りの計画・準備	
7日目	地区役員さんからの聞き取り	自治会長・民生委員・保健推進員 への聞き取り
8日目	情報分析	
9日目	地区役員との検討会の企画・準備	
10日目	地区役員との意見交換会	地域の代表の方に出席していた だき、ご意見を伺う

若宮地区での総合実習：実習の流れ



①

1. 大学での講話

実習初日に、若宮地区の概要について、自治会連合会長にお話いただく

社会福祉協議会職員、前橋市保健師さんからも、それぞれの活動についてご説明いただく

2. 学生の訪問準備

学生3～4名で1町丁を担当し、担当地域の活動を計画する

若宮地区での総合実習：実習の流れ



②

3. 若宮地区での活動

①家庭訪問

1町丁につき午前1件・午後1件、計6件の70歳以上の方に対し、学生2名で家庭訪問し、生活の様子や健康についてお話を伺う
訪問対象は、民生委員さんを中心に事前に選定していただき、声を掛けておいていただく

②地域活動の参加

グラウンドゴルフ、公民館活動など

③地区踏査

地区を歩き、街並みを確認したり、お店や公園にいる方などに許可を得てお話を伺う

③

4. 地区役員さんからの聞き取り

公民館で、1町丁3人程度の方（自治会長・民生委員・推進員）にお話を伺う。

それぞれの地域での役割・活動、地域の課題として感じること 等

5. 情報の分析・意見交換会の企画

6. 地区役員さんとの意見交換会の開催

学生が運営し、各自治会代表者さんに対し、自分たちの考えた若宮地区の課題と解決策について発表し、それをもとに意見交換を行う

学生保健サポーター

- 保健学科全専攻・全学年を対象
- 教育と地域貢献とを一体化
- 子どもと保護者、高齢者等を対象に、「まちなか交流サロン」をはじめとする地域住民のニーズにあわせた学生主体の活動を実施し、自律した学生ボランティア体制の構築を目指す

2015年以降、これまで9年間で200名以上の学生が学生保健サポーターの認定を受け、毎回10名以上の学生保健サポーターがサロン活動に取り組んでいます

まちなか交流サロン

目的 学生が実際に地域で高齢者と接することによって地域や高齢者について理解を深め、コミュニケーション力を高めることで、地域医療に貢献できる医療人となる礎を修得する。

参加者 保健学科学生（学生保健サポーター養成講座修了者）
・教員・地域の高齢者・地区役員等

時期 年2回、9月と3月（休み期間中）に実施

場所 大学近隣の自治会集会場

学生保健サポーター

まちなか交流サロンこれまでの開催

日付	参加者			
	住民の方 (役員、ボランティア含む)	大学	その他	計
1 2016年3月	25人	18人		43人
2 2016年3月	26人	24人	5人	55人
3 2016年9月	41人	17人	2人	60人
4 2017年3月	19人	25人	3人	47人
5 2017年9月	32人	17人		49人
6 2018年3月	19人	23人		42人
7 2018年9月	19人	16人	2人	37人
8 2019年3月	中止			
新型コロナウイルス流行により 中止				
9 2023年3月	31人	12人		43人

若宮地区との連携活動の成果

地域の方への効果

- 地域の方の元気につながった
「また来てね」「話ができて元気になれた」
- 普段地域活動に参加しない方の
活動参加のきっかけになった
- 地域活動のアイデア・根拠を提供できた

学生の効果

- 色々な世代の人と話すのが好きになった
- 地域で暮らす高齢者の思い考えや暮らしの理解が深まった
- 参加者に喜んでもらえたり「ありがとう」と言われ励みになった

今後に向けて

地域の課題解決に
大学/学生の力を活用していただくことで
大学/学生も成長発展する

- 実習の充実に向けて準備中
- サポーター活動の広がり

ご清聴ありがとうございました



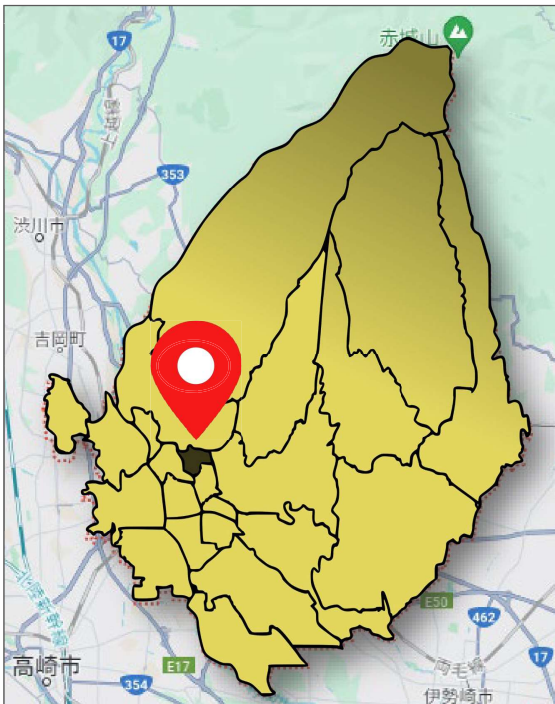
地域の現状を踏まえた 群馬大学との連携

若宮地区自治会連合会
会長 角田有司



01

若宮地区について



若宮町一丁目 若宮町二丁目 若宮町三丁目
若宮町四丁目 国領町一丁目 国領町二丁目
日吉町四丁目
若宮小学校区（7自治会）



若宮町一丁目 145世帯 324人



婦人会 20年ほど前に**解散**



育成会 13~14年ほど前に**解散**

小学生 (7~12歳) 12人
後期高齢者 (75歳以上) 99人

地域活動の**担い手不足**が課題

02

若宮地区地域づくり協議会について

主な活動

- ① まちなか交流サロン
- ② 群馬大学保健学科総合学習への協力とサロン実施
- ③ 養心寮沿いの佐久間川の掃除
- ④ 若宮地区マス釣り大会
- ⑤ プランター飾花作業(各町)
- ⑥ 子供と高齢者の交流事業へのサポート(各町)



養心寮とは… 群馬大学の学生寮



参加

地域の有価物回収
老人クラブのグラウンドゴルフ大会



① まちなか交流サロン

ピンシャン元気体操や歌、制作など

② 群馬大学保健学科総合学習への協力とサロン実施

学生が高齢者宅訪問を実施
健康や日常の困りごとの考察、解決のための具体的な方法の提案を受けた

03 今後の展望

若宮地区 × 群馬大学



- ① 群馬大学と相互に連携協力
- ② 高齢者と学生の交流の場の継続
- ③ 学生のニーズ調査を踏まえた地域づくり



実践報告 2

大利根町×NPO法人ソソリッサの取り組み

大利根町自治会長 岡正雄 氏

NPO法人ソソリッサ代表 萩原涼平 氏



まえばし地域共生フォーラム

大利根町とNPO法人ソソリッサ

(町社協チーム大利根との連携活動)

発表者

町社協チーム大利根

会長（自治会長） 岡 正 雄

1 大利根町の概況

1 歴史

昭和42年（1967年）に上新田町、下新田町、後家町、箱田町、稲荷新田町の一部にまたがる地域に、群馬県企業局が県下のモデル住宅団地として大規模住宅団地の分譲を実施し、昭和44年には、新しい町として大利根町一丁目、大利根町二丁目誕生した。

2 現在の状況

現在、世帯数1,200世帯、人口2,600人が居住している。公共的施設は、小学校、町公民館、銀行、公園4か所（中央公園、すみれ公園、しらゆり公園、ひまわり公園）、警察官駐在所が整備されている。

3 高齢社会の最先端

65歳以上の高齢者率は、一丁目37%、二丁目41%を超えている。

75歳以上の独居高齢者は、144人居住している。

町内の全人口は、35年間で932人減少した。（減少率-26%）

大利根町の各住宅は、1戸の敷地面積が約100坪と広いことから、二分しての住宅建が可能である。最近では、約50坪に新築住宅を建てて、若者世帯が転入するなど世代交代が進みつつある一面もある。

2 ソンリッサとの連携のきっかけとなった「町社協 チーム大利根」検討状況（時系列）

令和3年2月		令和5年4月24日	令和5年5月
大利根町連絡協議会設立 第1回全体会議	2年間活動なし	大利根町連絡協議会 第2回会議	新町社協 第1回PT会議
特別な活動はしない方針を決定		1 各種団体の活動の説明 2 生活支援体制整備事業「町社協」説明 3 実際に活動できる体制を作ること決定 4 高齢社会の大利根町として何もしなくてよいか（疑問） 5 人員を絞り検討PT設置	1 新町社協の活動の概要 2 新町社協設立へのロードマップ 3 参加組織・構成員の把握確認
令和5年6月27日		令和5年7月21日	令和5年9月8日
新町社協 第2回PT会議		町社協チーム大利根 第3回PT会議	町社協チーム大利根 第4回PT会議
1 名称 町社協チーム大利根（案） 2 活動の概要のアンケート調査 3 参加組織・構成員のアンケート 4 規約（案）提示		1 チーム大利根活動の概要（集約） 2 参加組織・構成員の確認 アドバイザーの指定＝市長寿包括課・市社会福祉協議会・地域包括センター東・大利根警察官駐在所・NPO法人 ソンリッサ） 3 チーム大利根規約（案）決定	1 10月開催予定の町社協チーム大利根全体会議開催要領・審議事項等決定 (1) 活動の概要 (2) 規約 (3) 役員 (4) 構成員 (5) 当面の検討を要する活動内容
令和5年10月24日		令和5年11月10日	令和6年1月
町社協チーム大利根第1回全体会議		町社協チーム大利根第1回全体会議欠席者会議	1 チーム大利根「生活支援パートナー登録・活用制度（大利根町人材バンク）PT第1回会議（1月15日） アドバイザー出席
1 活動の概要・規約・役員・構成員を原案どおり決定 2 当面の検討を要する活動内容 (1) 生活支援パートナー登録・活用制度（人材バンク）創設 (2) ホームページの作成・運用 (4) 大利根町中央公園の整備		(3) ミニ広報紙の発行	2 大利根町ホームページの作成運用PT第1回会議（1月16日） アドバイザー出席
			1 人材バンクPT第2回会議（2月19日） 2 ホームページPT第2回会議（2月20日）

3 大利根町とソソリッサの連携活動

- 1 「ソソリッサ」の拠点が大利根町公民館の入り口前にあり、極めて連携しやすい。
- 2 町社協の発足に向けたプロジェクトチームを編成して毎月会議を開催し、検討した結果、高齢者の見守りサービス事業を実施している「ソソリッサ」に「町社協チーム大利根」のアドバイザーとして参加を依頼した。
- 3 町社協チーム大利根の「生活支援パートナー登録・活用制度(大利根町人材バンク)及び「大利根町のホームページ作成」のための二つのプロジェクトチームメンバーとして参加を依頼した。
- 4 11月17日、4年ぶりに開催した大利根町文化祭に参加した。
- 5 「町社協チーム大利根」の大利根町人材バンク活動における「困りごと・助け合い活動」及び「ホームページの運用」の担い手として委託する。

4 「町社協チーム大利根」新規発足 (発足10月1日)

前体制 町社協「大利根町連絡協議会」として(令和3年2月発足)それまでの活動(見守り・交流)をそのまま継続する方針～特別なことは考えない

第1回全体会議開催・・・**コロナ禍によりその後の活動なし**

今年度 第2回全体会議開催(令和5年4月)

プロジェクトチーム設置(4回会議開催)

チーム大利根 新規発足(10月24日全体会議開催)

規約・役員・名称・今後の課題等を周知

組織 事務局(副会長担当) 庶務・会計・他の団体等の連携

生活支援部(副会長担当) 介護予防活動・生活支援活動

困ったときの助け合い活動

アドバイザー 前橋市長寿包括ケア課・前橋市社会福祉協議会

地域包括センター東・**大利根警察官駐在所**

NPO法人ソソリッサ(高齢者の見守りサービス事業実施)

5 「町社協チーム大利根」の活動内容

*介護予防活動・生活支援活動

*困ったときの助け合い活動

その1 担い手の確保（委託 NPO法人ソソリッサ）

生活支援パートナー登録・活用制度（大利根町人材バンク）

その2 情報共有・情報交換活動＝つなぐ 知らせる

HP作成・活用促進（委託 NPO法人ソソリッサ）

ミニ広報紙の発行（10月号から毎月発行）

生活支援パートナー登録・活用制度（大利根町人材バンク）

介護予防活動及び生活支援活動

(公民館見守り活動)
 スマホ・ライン講習
 パソコン講習
 ふれあいサロン
 ピンシャン元気体操
 エンジョイクラブ
 輪投げ
 音楽鑑賞
 健康マージャン
 グラウンドゴルフ
 元気ひろげ体操
 ラジオ体操
 ヨガ教室
 太極拳
 健康教室
 書道教室
 健康ウォーキング

困りごと・助け合い活動

別表のとおり

その他の

公民館行事お助け隊
 オープンガーデン
 イルミネーション
 フリーマーケット
 図書館の貸し出し

人と人をつなぐ制度

して欲しい人・困っている人と
 やってあげる人
 一緒にやれる人
 アドバイスできる人
 仲間になれる人

別表

予想される困りごとと助け合い活動事例（抽出中）

（ソニリッサ及び業者等に委託する業務）

困りごと・助け合い活動事例	困りごと・助け合い活動事例	困りごと・助け合い活動事例
ボランティア活動相談支援	ゴミ出しの代行	室内外の不要物の片付け
仕事探し相談（パート等）	段ボールつぶし	カーテンの洗濯
リフォーム業者紹介相談	粗大ゴミの搬出	庭木・生垣伐採（業者除く）
電気工事業者等の紹介相談	重い荷物の搬出・携行	窓ガラス拭き
庭木の伐採業者紹介相談	灯油の購入（代行）	草むしり
屋根・外壁塗装業者紹介相談	入退院、入所時の荷物の搬送	除草剤の散布
国勢調査の書類作成	ふれあいサロン参加同行	包丁砥ぎ
税務(所得税・相続税等)相談	買い物の同伴	電球交換・電化製品組み立て
市役所等からの書類の記載	お年寄りの話し相手	公民館の利用相談
年金の相談	大掃除・お墓掃除の手伝い	公園の利用相談

ご清聴ありがとうございました。

ご列席の皆様には、高齢社会そのものの大利根町
に対する温かいご指導、ご支援をお願いいたします。

大利根町公民館 371-0825 前橋市大利根町一丁目29番地
町社協チーム大利根会長
(自治会長) 岡 正 雄
027-253-0949

ひとりで抱えずに、
優しいつながりが、溢れる社会をつくる
高齢者の孤立・孤独を笑顔に変える

【1】 高齢者見守り・コーディネート
サービス「Tayory(タヨリー)」



Copyright © 2022 ソンリッサ All Rights Reserved.

【2】 ふれあいの場づくり
地域サロン事業



【3】 認定まごマネージャー
育成プログラム



基礎情報：創業の背景



前橋市茂木町出身（旧大胡町）
22歳でNPO法人ソンリッサ創業
現在29歳 血液型：B型
趣味：将棋、読書、歴史、美術

【直近のメディア掲載実績等】

- ・NHK「おはよう日本」NHK「歳末助け合い」掲載
- ・テレビ東京「全カインベーターズ」
- ・テレビ朝日「25歳の情熱の起点」出演
- ・直滑降ストリームで山本知事と対談
- ・ぐんま地域づくりAward2022大賞

原体験：祖父を突如亡くした大好きな祖母を元気にしたい！という原体験から、高校生の時に、高齢者の孤立・孤独問題を解決したいと決意。



萩原の関わった成功体験

孤立状態の高齢者男性の方にスマホの使い方のサポートをしながら、信頼関係を構築した。



スマホ教室のスタッフになり、日々の役割を見つけて楽しく生き生きと笑顔が多くなった



Copyright © 2022 ソンリッサ All Rights Reserved.

興味関心をもって話に耳を傾け、
地域との接点をつくること

Copyright © 2022 ソンリッサ All Rights Reserved.

まごマネージャー = まご✕想い✕孤独を笑顔に

- 1 孫のような存在だからこそその温かい関係性
- 2 医療福祉専門職や地域活動に従事
- 3 高齢者の孤立・孤独をつながり笑顔に変えるための専門家
- 4 まごマネ理想の状態(9つの要素)を高めるために日々研鑽を積む。



まごパートナー = まご✕想い✕純粹さ

- 1 孫のような存在だからこそ心が開く
- 2 支援するのではなく、相談・お節介をもらう
- 3 自分の楽しみ・経験として活動

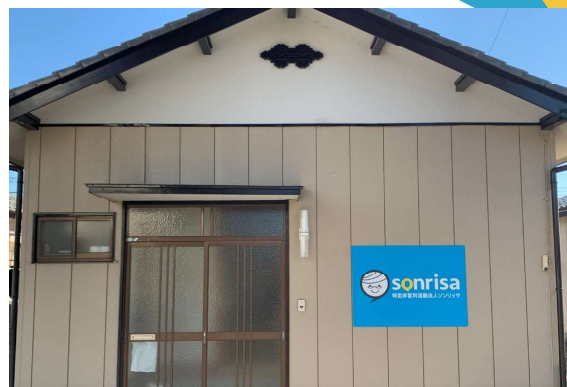


大利根町との関わり

1.大利根団地の公民館前に運命の拠点を発見

2.大利根町のウォーキングサークルやぴんしゃん元気体操に参加

3.大利根町文化祭にてフランクフルト担当を実施



Copyright © 2022 ソンリッサ All Rights Reserved.

大利根町の拠点にて、毎週水曜日に居場所サロンを実施

「近所の友達の家にお茶飲みに寄る」ような、ふらっと立ち寄りやすい居場所」

・ハンドクリーム作成講座、体操講座、スマホ講座、ドリップコーヒーの淹れ方講座・さきあみ講座

→地域の方からの差し入れや、困りごとの相談、お花を花壇に植えてくださるなど地域の方との交流も増えてきた。



スマホ講座・ライン講座、スマホ相談お茶会の開催

- ・ スマホの操作に困っている高齢者の方が多い。
- ・ つまづきのポイントは一人ひとり異なるため、個別でのサポート



大利根町との関わり

- 大利根町社協の会議に参加
- ・ ホームページの広報協力
- ・ 生活支援パートナーとして取り組む



今後の展望

- ・ 地域福祉に関心を持つ若者が地域（大利根町）に入っていくためのつなぎ役になりたい。
- ・ 地域の住民に愛されて、若者も地域から学び、つながりが溢れる町へ

